

かぜと、従来型ヒト・高病原性鳥および 新型インフルエンザについて

久賀 圭祐（保健管理センター 臨床医学系 准教授）

最近も秋田、北海道で高病原性鳥インフルエンザに感染した野鳥などが見つかり、新聞で報道されていることはご存じのことと思います。今回は、かぜと従来型・高病原性鳥および新型インフルエンザについてお話しします。

「かぜ（症候群）」とは

「かぜ（症候群）」とは、ウイルス感染（インフルエンザ、パラインフルエンザ、RS、コクサッキー、ライノ、などのウイルス）によって、上気道炎症状（くしゃみ、鼻水、鼻閉、咽頭痛）や下気道炎症状（咳、痰）、および全身症状（発熱、倦怠感、節々の痛みなど）などの「かぜ症状」を生じるものをさします。

「インフルエンザ」とは

かぜ（症候群）のうち、インフルエンザウイルスによるものを「インフルエンザ」と呼びます。通常の「かぜ（症候群）」よりも、全身症状が強い（概ね38.5度以上の高熱、倦怠感・節々の痛みが強い）のが特徴です。（ヒト）インフルエンザの世界的な流行は10～40年周期で生じており、特に1918年に発生した「スペインかぜ（あるいはスペインインフルエンザ）」は4ヶ月で世界中に広がり、5億人が感染し4000万人（日本では50万人）が死亡しました。その後、1957年アジアかぜ、1968年香港かぜ、1977年ロシアかぜ、1997年香港かぜが、世界的に流行しています。インフルエンザウイルスはA、B、C型に分類されます。さらにA型インフルエンザは、表面にあるノイラミダーゼ（Neuramidase, N）とヘマグルチニン（Hemagglutinin, H）というウイルスの増殖に必要な構造物に亜型があり、NとHの型の組み合わせで亜型を表します（Nは9種類、Hは16種類）。

「高病原性鳥インフルエンザ」

鳥インフルエンザはすべてA型に属し、1997年に香港で初めてヒトに感染したのは高病原性のH5N1型で、以来現在まで問題となっているのはH5N1型です。水鳥（アヒル、カモなど）類では、インフルエンザウイルスは腸管に存在しており、水中に排泄された糞を介してひなや他の水鳥に感染を起こします。水鳥には病原性を示すことはほとんどありません。また家禽（ニワトリ、シチメンチョウ、ウズラなど）に対する感染力および病原性は本来低いのですが、感染を繰り返す過程で遺伝子に変異が起こるなどして強毒株となり、家禽に対しても感染力が強かつ強い病原性を持つものが「高病原性鳥インフルエンザ（Highly Pathogenic Avian Influenza）ウイルス」となります。鳥インフルエンザウイルスは、ヒトに直接感染することは少なく、またヒトからヒトへの伝

染は起こりにくいと考えられています。しかし大量のウイルスとの接触や、宿主の体質などによってはヒトに感染したり、またヒトからヒトへ感染を生じることがあります。

「新型インフルエンザ」

また鳥インフルエンザのヒトへの感染が繰り返されたり、ヒトとトリの両方のインフルエンザウイルスの感染が起こるブタの体内で両ウイルスの交雑などが生じると、高病原性鳥インフルエンザの抗原性と強い病原性、ヒトインフルエンザのヒトへの感染力のいずれも兼ね備えた新型のインフルエンザウイルスが誕生することが予想されます。これが危惧されている「新型インフルエンザ」です。この場合、抗原としては新しいので、人類には抗体すなわち免疫がなく、世界的な大流行になることが懸念されています。

対応

通常のヒトインフルエンザに対する治療としては、ワクチンによる予防が有効ですが、亜型が変異した場合には効かないことがあります。発症から48時間以内であれば、タミフルの内服が有効ですので、医療機関にご相談ください。

新型インフルエンザに対してはインフルエンザウイルス自体抗原変異が激しく頻繁なので、あらかじめワクチンを用意することはできません。新型インフルエンザが発生して、初めてウイルスを分離・同定してワクチンの開発が開始されます。しかし大量生産には1年近くの時間がかかると考えられています。H5N1型インフルエンザあるいは新型インフルエンザにタミフルが有効であるとの確証はありませんが、本邦では治療用として約1,000万人分を備蓄しています。

鳥インフルエンザ、新型インフルエンザについての、さらに詳しい情報や対策については、下記サイトをご参照ください。

http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/index.html（国立感染症研究所 感染症情報センター）

<http://homepage3.nifty.com/sank/jyouthou/BIRDFLU/index2.html>（小樽市保健所提供の最新情報）

<http://homepage3.nifty.com/sank/jyouthou/BIRDFLU/otaruguide.pdf>（小樽市民のための新型インフルエンザ対策ガイドライン）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakukansenshou04/index.html>（厚生労働省のガイドライン）



ひとりで悩まず 保健管理センターへ

保健管理センター受付 029(853)2410

学生相談室受付 029(853)2415